桜歯ニュース
2024. 7. 15
VOL.223
日本大学歯学部ホームページ：https://www.dent.nihon-u.ac.jp/

古豪復活に向けて

図書館分館長　浅野　正岳

本学の国家試験合格率の低迷が言われて久しい。全国の同窓諸氏が最も気をもんでおられる問題であることは充分認識している。ことの本質は何か。今年の本学現役卒業生の合格率は70.8％で、全国私立歯科大学17校中12位となった。近年、各大学において、不当に合格率を高く見せようとする動きが多発し、上記の見かけ上の合格率についてはこの点を十分に勘案する必要がある。そこで国試受験出願者数を分母とした真の合格率を計算すると67.3％となり、5位にまで順位が上昇する結果となった。「実にめでたいことである」と大方の学生や先輩諸兄は思われることであろう。しかし、かつて我が日本大学歯学部は、国立大学をも含めた中で、全国トップクラスの合格率を誇っていたではないか。輝かしい母校の姿を思い出したとき、「5位とは何たる体たらく」との感慨を抱かざるを得ない。現状打破にとって何が大切か。いうまでもなく、全教員の熱意である。また、長きにわたる低迷は、学生諸君の士気を阻喪せしめるに充分であった。今こそ、「古豪復活」という目標に向け、すべての学生は、本学の学生であることに誇りを持ち、教職員と共に一致団結して必死に取り組む必要がある。これ以外に良作無しとの決意を新たにしている。

（教授　病理学講座）

歯学部開講式

令和６年度歯学部開講式は、４月２日（火）本館大講堂（創設百周年記念講堂）において、新入生128名を迎えて挙行されました。

飯沼利光歯学部長からの式辞があり、横江順同窓会会長及び西田香後援会会長が祝辞を述べられました。続いて在校生を代表して橋本紋伽さん（第６学年）が「歓迎の詞」を、新入生を代表して佐藤聖矢さんが「誓いの詞」を述べました。

【新入生128名の内訳】

男子60名（47%）、女子68名（53%）、現役70名（55%）、既卒等58名（45%）、一般選抜入学者83名（A方式64名、N方式第１期12名、同第２期３名、C方式第１期４名）、学校推薦型選抜（付属高等学校等）20名、（公募制）４名、校友子女選抜21名

出身高校数106校（外国の学校等を除く）：日本大学４名、日本大学第二、光塩女子学院高等科　各３名、日本大学三島、日本大学第一、日本大学東北、佐野日本大学、佐野日本大学中等、目黒日本大学、城北埼玉、攻玉社、城北埼玉、日本女子大学付属　各２名、日本大学櫻丘、日本大学豊山、日本大学藤沢、日本大学山形、土浦日本大学中等、宮崎日本大学、桐蔭学園　ほか

大学院歯学研究科開講式

令和６年度大学院歯学研究科開講式は、新入生24名（うち社会人６名）を迎え、飯沼利光歯学研究科長をはじめ関係教職員出席のもと、４月４日（木）本館大講堂（創設百周年記念講堂）において挙行されました。厳粛な雰囲気の中、飯沼利光歯学研究科長からの式辞、続いて新井嘉則研究担当からの祝辞がありました。新入生を代表して新井智美さんが「誓いの詞」を述べ、式終了後には修学及び研究等についてガイダンスが行われました。

出身高校の所在地県別入学者数：東京42名、神奈川12名、埼玉９名、栃木８名、静岡６名、千葉、茨城　各５名、福島、長野　各３名、北海道、山形、新潟、愛知、広島、宮崎、沖縄　各２名、岩手、宮城、群馬、富山、福井、山梨、三重、大阪、兵庫、鳥取、香川、佐賀、長崎、鹿児島　各１名　外国の学校等　７名

既卒生に対する国家試験合格支援活動について

卒後教育担当　萩原　芳幸

国家試験合格支援活動小委員会では、３月の国家試験解説動画の配信を始め、臨床研修歯科医のマッチング支援、必修対策ミニ講義、学内外講師による国家試験特別講義，既卒生の希望に合わせた特別実習等を行っています。また、委員一人が６～７名の既卒生を担当し、質問事項への対応や国家試験願書作成のアシストなど、個々に寄り添った対応を行っています。年末年始には会議室を開放して休暇中でも勉強できる環境を整えるなど、国試直前まで全力でサポートしています。

（教授　歯科補綴学第Ⅱ講座）

登院式を終えて

天野　真未

令和６年４月１日月曜日、今年度の第５学年登院式が行われました。

みんな真新しい院内服を着て、先生方のお言葉や同級生の誓いの言葉を、緊張感を持って聞いていました。

入学してからあっという間に月日は過ぎて、第４学年の最後に行われるCBTとOSCEをクリアし、私たちは今日からStudent dentistとして臨床実習に参加させて頂くことになります。今までは実習でマネキンを使ってきましたが、これからは本物の患者さんと向き合うようになると思うと非常に大きな不安を感じました。きっとみんなも同じだったと思います。しかし一方で楽しみな気持ちもありました。これまでやってきた実習や授業が臨床実習でどう関わってくるのか、お世話になっている先生方は患者さんといつもどう接していらっしゃるのか…。

そして色々な気持ちが交錯したまま、臨床実習１日目を迎えました。

実際の診療で患者さんと先生のお話を伺って、患者さんが先生のことをとても信頼しており自分の疾患に対して真摯に向き合っていることが伝わってきて、「私もいつか患者さんに信頼してもらえるような立派な歯科医師になれるように頑張ろう」と強く思いました。

最初は用意する器具など戸惑うことも多かったのですが、１週間もするとみんな少しずつ慣れてきたようで、患者さんの来院理由や疾患について落ち着いて見たり聞いたりする余裕が出てきました。非常に印象的だったのが、今まで教科書や授業資料でしか見たことのなかった疾患がここでは日常的に目にするということです。授業で聞いたときは現実味がなく、ほんとにそんなものがあるのだろうかと疑問に思うことが多かったのですが、臨床実習でこれまでの授業内容で得た知識と繋げることができました。

臨床実習を行うこの貴重な１年間を、将来受ける国家試験や歯科医師となったときの糧となるよう、努力を怠らず日々過ごしていこうと思っております。

先生方、どうかご指導の程よろしくお願いいたします。　（第５学年）

クラブガイダンス

クラブ協議会会長　佐藤　太

４月13日(土)、本館７階百周年記念講堂にてクラブガイダンスを行いました。クラブ別に発表を行い、その後、教室や実習室にクラブを振り分け、新入生と先輩が直接お話するという方式を取りました。１年生の積極的な参加もあり、活気のある雰囲気で行うことができました。コロナウイルスによる制限も大きく緩和され、各クラブが練習体験会や食事会などの準備に試行錯誤し、奔走している姿が見られました。

私自身は入学時にコロナ禍となり勧誘というものを受けず、３年からクラブが始まりました。そんな自分が会長となり、勧誘を無事終えることが出来たのは、先生方、学生課の方々、クラブ協議会役員、各クラブの主将そして周りの友達など多くの人の協力があって出来たことです。勧誘期間の中で、良かった点や改善点など様々な意見を頂きました。それらを踏まえ、来年に向けてより良い勧誘となるよう改善していきたいと思います。本当にありがとうございました。（第５学年）

球技大会を終えて

実行委員長　北畠　有里子

今年度の球技大会も全過程を無事終了することが出来ました。人前に立つことが得意ではなく、慣れない中で沢山の方々に支えられながら準備を進めて参りました。球技大会の運営と学生生活の両立は非常に困難でしたが、多くの人の協力があったからこそ、大会を成功させることが出来たのだと確信しております。会場に足を運んで下さった皆様から楽しかったという嬉しい声もあり、頑張って準備してきて良かったと強く思いました。

一方で球技大会の参加者数の減少が深刻化しています。球技大会で得た繋がりは学生生活、国家試験合格にも活かすことが出来ると思うため今年度の反省を含めて、次期委員長を中心に全員が参加したくなるような大会を作り上げて欲しいと願っています。

最後に、開催するにあたり協力して下さった教職員の皆様、大会に関わる全ての学生の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。（第５学年）

第117回歯科医師国家試験を終えて

学務担当・学習指導委員会委員長　林　誠

第117回歯科医師国家試験は、令和6年1月27日（土）と28日（日）の2日間の日程で実施され、第6学年の卒業予定者96名が受験しました。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてたこともあり、試験当日の朝は試験対策に携わった教職員やクラブ活動の後輩による大勢の応援を受け、受験生は試験会場である東京工科大学蒲田キャンパスに向けて出発しました。

3月15日（金）14時過ぎに厚生労働省より合格発表がありました。今年度は全国で3,117名が受験し、総合格者数は2,060名と過去10年で最も多い合格者数でした（新卒1,962名、既卒460名）。しかし、合格者数の増加は昨年より2.6%増加と若干であり、第107回以降続く合格者数2,000人前後のトレンドに大きな変化はなく、歯科医師国家試験の選抜化の様相は継続されていると考えられました。全国の合格率は66.1%（新卒81.5%、既卒39.8%）で、国公私大別にみると、国立78.8%、公立73.5%、私立62.0%である中、本学の合格率は57.2%（新卒70.8%、既卒38.6%）でした。本学の新卒合格率は昨年を3.4%上回り、私立歯学部17校中第12位の結果でありました。

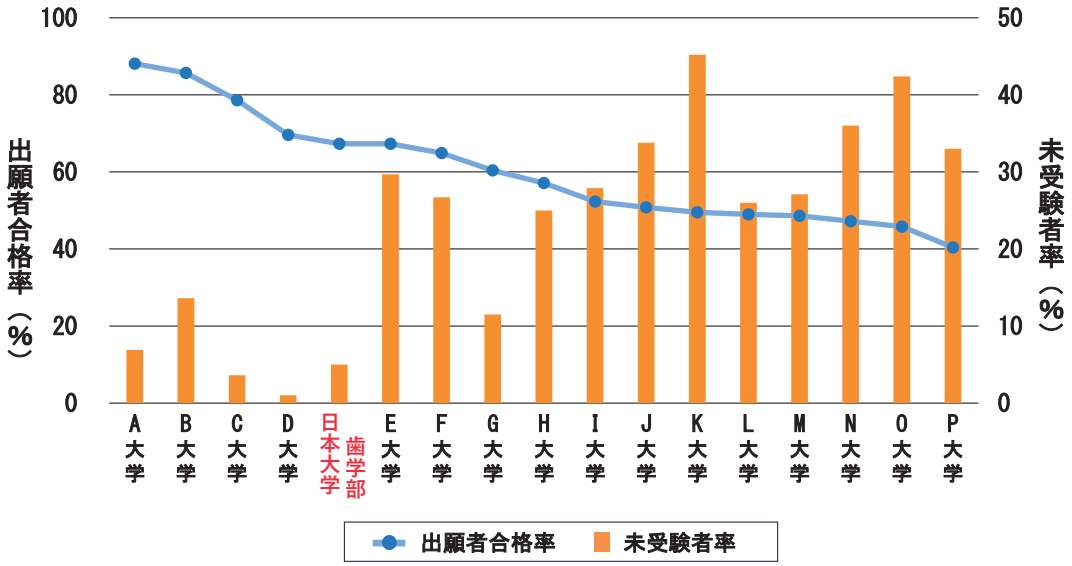
近年、厚生労働省は合格率算出の分母となる受験者数以外にも出願者数を公表しており、この出願者数から、出願をしたものの実際には受験しなかった（卒業できない）学生数（未受験者数）を計算できます。これらの数値を使い、私立歯学部の未受験者率（下記の棒グラフ）と出願者合格率（下記の折れ線グラフ）を算出してみると、私立歯学部の未受験者率の平均は23.2%であったのに対して、本学では5.0%であり私立歯学部17校中3番目に少ない未受験者率（6年生の卒業者率が高い）でした。また、私立歯学部の出願者合格率の平均は60.9%でありましたが、本学では67.3%であり、私立歯学部中第5位の出願者合格率でした。本学では、歯科医師国家試験に合格できる可能性のある学生は積極的に卒業させて国家試験を受験してもらう方針を取っております。今後もこの方針を維持しつつ、厚生労働省の発表する合格率も高くできるように努力していきたいと考えております。

令和6年度は対面授業を中心とした学修環境に戻すことで、学生と教職員間の密なコミュニケーションや連携を取りやすくしました。また、録画した授業動画をオンデマンドでいつでも視聴できる環境の提供など、コロナ禍中に構築したデジタルテクノロジーの良い点は活用し、より質の高い教育の提供を目指してまいります。

近年の国家試験では、臨床現場で経験していないと解けない臨床実地問題も出題される傾向にあります。そのため、机上での学修だけに励むのではなく、第5学年時の臨床実習を始めとした実習科目も大切にし、臨床現場をイメージできることが不可欠となっています。また、教科を超えた問題や基礎と臨床を合わせた問題も出題される傾向があります。これらの事から考えますと、国家試験に合格するためには、低学年の早い段階からの学修習慣を確立させ、幅の広い知識と応用力を身に付けることが重要になっております。学生諸君には、国家試験は6年間の学修の集大成であることを忘れず、国家試験合格という目的意識を常に持った学生生活を過ごしていただきたいと思います。

（教授　歯科保存学第Ⅱ講座）

第117回歯科医師国家試験　出願者合格率（新卒）



研修歯科医採用について

卒後教育担当　萩原　芳幸

国家試験合格後に皆さんが歯科医師として活動するには、臨床研修は必ず通らなければならないステップです。

日本大学歯学部付属歯科病院の研修プログラムは学内外からも高評価を得ており、毎年200～250人ほどの研修希望者が採用試験を受けています（令和7年度は109名の採用を予定）。研修歯科医は総合診療科に所属し、管理型臨床研修施設（日本大学歯学部付属歯科病院）での研修を基本に、様々なカリキュラムに沿って臨床を学びます。当歯科病院では卒前教育で習得した歯科診療に関する知識、技能および態度を臨床の場に結びつけるシームレスな指導のために、2種類の研修コースを設定しています。

1．S・C・O・Pコース［口腔外科、保存科、口腔診断科または小児歯科、補綴科のいずれかを6ヶ月間、協力型（Ⅰ）臨床研修施設で6ヶ月間の複合研修方式］。100を超える協力型（Ⅰ）臨床研修施設では臨床経験豊かな指導歯科医のもと、様々な診療に従事することが可能です。管理型臨床研修期間中には、島しょ地区（伊豆諸島）研修や短期研修などが希望できます。
2．CDコース［協力型（Ⅱ）臨床研修施設での5日以上30日以内、総合診療科で通年の複合研修方式］。総合診療科の研修指導歯科医のもと、包括的歯科診療の検査・診断・治療計画ならび診療技術を同じ患者を通して習得することが可能です。また、島しょ地区研修は必修であり、その他の短期研修は希望制です。

このように卒前教育で習得した歯科診療に関する知識に加え、技能および態度を臨床に結びつけ、歯科医師としての基本的診療力が身につく研修を受けていただきます。最終的には、歯科医学および歯科医療の果たすべき社会的役割を認識し、様々な症例に対応できるような総合的判断力と医療知識・技術を兼ね備えた人材の育成を目指しています。

（総合診療部部長、歯科補綴学第Ⅱ講座　教授）

歯科医師臨床研修を終えて

境　風羽

私は専門診療科（口腔診断科）で3か月、協力型（Ⅰ）研修施設で9か月の研修を行うプログラムを選択しました。口腔診断科では、野間教授をはじめ上級歯科医の指導の下、口腔領域の難治性特殊疾患（慢性顔面痛、心身歯科疾患等）、味覚異常などを学ぶことができ、充実した3か月間を過ごしたことが印象的でした。研修後も更なる知識を求め口腔診断科に入局を決めました。私は、まだ歯科医師人生のスタートラインに立った ばかりではありますが、その一歩目としてかけがえのない研修ができたと思います。

（本学部卒業）

謝　蕙璘

協力型（Ⅰ）臨床研修では日々多忙で、多くの歯科治療を実践する機会があり、私はとても充実した日々を過ごせたと思います。管理型臨床研修施設では歯周病科で歯周外科の見学や介助と貴重な経験ができました。歯周病学にとても興味があったので、この経験が私にとってより知識や技能を高めたいという気持ちが高まり、歯周病科への入局の決め手となりました。最後に、研修で出会った先生や友人に感謝し、研修期間に学ばせて頂いた貴重な経験を今後の歯科医師人生に役立てたいと思っております。

（他大学卒業）

京都校外研修

クラス担任　人見　涼露

令和６年２月29日、３月１日と２日間、希望者による第５学年校外研修が京都府にて行われた。新型コロナの影響で令和２、３年度は開催が見送られたが、昨年より復活し、令和５年度は学生90名、引率教職員６名の合計96名の参加となった。当日は生憎の曇り空で、午後には雨が降り出す悪天候の中、２台のバスに分かれて研修先のモリタ製作所へ向かった。モリタ製作所では、10人程度のグループごとにモリタ製作所の職員に導かれ、作業中の工場内の見学や新旧の歯科用ユニットや歯切削用のエンジンなどを紹介していただいた。学生は皆興味津々であれこれ質問しながら見学をしており、有意義な時間を過ごしていた。私自身、学生時代にモリタ製作所の見学を経験していたが、当時よりバージョンアップしたモリタ製作所での見学は非常に興味深いものだった。研修前後には、清水寺などの名所を訪ね、短い時間の中で見学したり土産物を買ったり、またお腹を満たすなどして、各自楽しい時間を過ごしたようだった。夜は一同そろって大広間で夕食をいただき、その後は夜中まではしゃぐ声が聞こえたものの、翌日の朝には皆そろい無事解散となった。現地で体調不良となり帰宅した学生もいたものの、全体的には大きな混乱もなく研修旅行を終えることができた。病院実習を終え、受験勉強中心となる６年生が始まる前に学年でまとまって研修旅行に参加することは、歯科医師になるという自覚を持つためにも非常に意味のある機会だと感じた。

（専任講師　生理学講座）

齋藤　円

校外研修旅行で校外研修委員を務めさせていただきました齋藤円です。第５学年では、歯科臨床で用いる歯科器材についての理解を深め、あらためて臨床実習で学んだことを再確認すると同時に、クラス学生間の親睦をはかる目的で、校外研修旅行が行われています。今年も１泊２日の日程で京都に行ってきました。校外研修旅行では、京都の有名な観光名所である伏見稲荷大社、清水寺、二条城などを回りました。特にこの校外研修旅行でメインとなるのはモリタ製作所です。モリタ製作所では、普段自分たちが使用している歯科用器具や歯科用ユニットが昔から現在に至るまでどのような進化を遂げてきたのか学ぶことができました。案内していただいた方のお話を聞いたり、見たり、実際に触れてみたりすることで、その機能を知ることができ、とても良い経験になりました。また、自分が開業した際にどのようなものを用意したら良いか、患者さんに対してより良い治療を行うにはどのようなものを選べば患者さんのニーズにお応えできるのかなどの参考にもなり、将来歯科医師を目指す身として色々な事を学ばせていただく良い機会となりました。１泊２日と短い期間でしたが、先生方やクラスの友達とも話す事ができて、とても楽しい校外研修旅行でした。ご支援していただきました後援会の皆様、先生方、ありがとうございました。

（第６学年）

第１学年オリエンテーション

令和６年度の第１学年オリエンテーションが、４月19日、20日に日本大学軽井沢研修所にて開催されました。

第１学年担任　藤原　恭子

今年度、初めて１年生のオリエンテーションを引率し、グループ作業ではファシリテーターを務めました。作業は、試験や出席のルールといった学務事項、あるいは大学周辺の飲食店情報など、大学生活を送る上で重要な事柄についてポスターにまとめるというもので、慣れない共同作業に戸惑いつつも、皆タブレットを駆使して、期限内に完成させることができたようです。投票の結果、教員の似顔絵が描かれたポスターが、そのインパクトの強さもあって最優秀賞を獲得しましたが、受賞を逃したポスターの中にも、説明文がよく練られたものや、レイアウトに工夫が見られるものなど、惜しい作品が多々ありました。また、最初はぎくしゃくしていたグループでも、作業が進むにつれて会話や笑いが増え、交流が深まっている様子でしたので、「仲間を作る」という研修の第一の目的は果たせていたと感じます。

（准教授　解剖学第Ⅰ講座）

第１学年担任　岩崎　太郎

「なりたい自分へのStep」を大きなテーマとして掲げた２日間の第１学年オリエンテーションにクラス担任として参加してきました。1日目には「よりよい学生生活のために」をテーマに、先輩方から歯学部での学生生活や卒業後の様子等についてプレゼンがありました。第２学年の学生たちが作成した学修についての動画は、教員の立場からもついつい見入ってしまう内容でした。新入生にとっては良い教訓を受け取ることができたのではないでしょうか。天候にも恵まれた２日目の旧軽井沢散策では、仲間同士がより打ち解けるきっかけとなったことでしょう。

私は本学出身ですが、新入生オリエンテーションは千葉県横芝で行われました。軽井沢の地で当時の記憶と重ね、思いを馳せるタイムトラベルをしたような気分を味わいました。新入生の皆さんには一度きりの体験や瞬間を大切にして欲しいと思います。なぜなら、これらが「なりたい自分へのStep」のピースの一つとなり得るからです。　（助教　歯科補綴学第Ⅲ講座）

弓場　こはる

新しい大学生活に期待を膨らませながら４月２日の開講式を迎えた。日本武道館での入学式では新入生代表挨拶もさせていただき、本学の学生になった自覚を持った。少しずつ学校に慣れてきた頃、軽井沢研修所での１泊２日のオリエンテーションに参加した。１日目はグループワークでのポスター作りや先生方や先輩方のお話を聞くことができ、本学部について理解が深まった。翌日には軽井沢散策を行い、交友関係を深める絶好の機会となった。バスの中や研修所の部屋でそれぞれ育った環境も考え方も全く違った仲間と共に過ごし、新たな出会いに溢れた２日間となり、大学生活に更に期待が高まった。これから６年間切磋琢磨して共に過ごす仲間達と寝食を共にして非常に有意義な時間を過ごすことができた。

（第１学年）

黎　峻池

１泊２日のオリエンテーションが日本大学軽井沢研修所で行われました。留学生である私にとって、初めての合宿体験は興奮に満ちていました。

初日、私は資料検索を担当して、グループメンバーと協力し、素晴らしいポスターを作成しました。その結果、「学生担当賞」を受賞しました。あの瞬間の喜びは今でも鮮明に覚えています。また、私の故郷にはない大浴場での体験も新鮮でした。広々とした湯船でゆったりとした時間を過ごし、日常の疲れを癒しました。

翌日は、グループで旧軽井沢を散策しました。雲場池の涼やかな風を感じながら歩き、地元の商店街で美味しい食べ物を楽しみました。留学生として友達を作ることができるか不安でしたが、オリエンテーションに参加したことで、仲間をつくることができました。たくさんの初体験をし、研修の記憶は私の宝物となりました。　（第１学年）

第56回
全日本歯科学生総合体育大会

歯学体正評議委員　二ッ谷　和那美

今年度も国内29校全ての歯学部・歯科大学が参加する全日本歯科学生総合体育大会が行われます。4年ぶりの開催となった前回大会では我が日本大学歯学部は総合準優勝という大変素晴らしい結果となりました。総合優勝9回、総合準優勝11回と多大な功績を有している日本大学ですが、その結果の裏には日々の練習の積み重ねがあり、仲間と共に高め合う環境があったと思います。歯学生は勉強とクラブ活動の両立や時間の確保など大変なこともたくさんあったかと思いますが、今大会でも練習の成果を思う存分発揮し、まずは1人ひとりが楽しんで総合優勝を目標に力を出し切っていただけたらと思います。高学年の皆さんは最後の大会として悔いの残らないよう、また次の代に繋がる歯学体となるように頑張ってください。

本大会に出場する皆さんのご活躍を祈念して、評議委員として全力でサポートさせていただきますので、よろしくお願いいたします。　（第5学年）

学生会から

学生会会長　西出　怜央

令和6年度日本大学歯学部学生会会長に就任いたしました5年西出怜央です。昨年度は桜歯祭実行委員長を務めさせていただきました。「我が大学、我が学部を更に盛り上げたい!」最も明確な目標は、歯科医師国家試験に日大歯学部「全員合格」です。医療人のスタート地点に全員で立てるよう、切磋琢磨していきます。学友同士、また親身にご指導くださる先生方との距離を近く感じる校風が私は好きです。コロナ禍が始まった春に入学して早5年目、臨床実習が始まり、患者さんとのやり取りは緊張の連続で日々勉強です。安心して治療を受けていただける幅広い見識と豊かな人間性を身につけられるよう、仲間と認め合い、助け合いながら精進していきたいです。学生生活がもっと快適に、有意義になるご意見、困りごとありませんか。できることから全力で取り組みます。気軽に話しかけてください!よろしくお願いいたします。　（第5学年）

桜歯祭に向けて

桜歯祭実行委員長　福島　金龍

今年の桜歯祭は10/11(金)、10/12(土)に行われます。去年の桜歯祭はコロナが明けたということもあり、芸能人企画が復活し、なかやまきんに君に来て頂き大いに盛り上がりました。また、各クラブによる飲食物の出店、いちにち歯医者さんという来場者の方が実際に歯の模型を作製する、また道具を使ってファントムという顔のマネキンで虫歯を削り詰め物を行う体験企画、そしてビンゴ大会企画といった参加型の企画があり、多くの学生・来場者に足を運んで頂きました。今年も来場者の皆様、それから学生の皆さんに楽しんで頂き、大学生活で一生忘れることのない思い出となる桜歯祭になるよう、実行委員一同で準備を進めて参ります。本学における毎年一度しか開かれない桜歯祭へのご来場を心よりお待ちしております。　（第4学年）

映画上映会＠書架奥

歯学部図書館

5月31日、図書館書架奥のスペースにて、映画上映会を開催しました。上映されたのは「蹴る：電動車椅子サッカードキュメンタリー映画」です。佐藤紀子准教授（健康科学）が司会を務め、7名が参加しました。電動車椅子サッカーとは、筋ジストロフィー、脊髄性筋委縮症、脳性麻痺など重度の障害のある選手がおこなう競技スポーツです。専用の電動車椅子を自在に操り、個人技やチーム戦術を駆使し、迫力のあるゲームが繰り広げられます。パラリンピックの実施競技ではありませんが、一般的なサッカーと同様にワールドカップが開催されます。この映画は、代表選考における厳しい競争や各選手の様々な葛藤、障害のある人々の日常風景などを軸に構成されています。

照明を落とした書架の奥は独特のムードがあり、映画鑑賞にピッタリでした。上映後には参加者が感想を述べあい、それぞれがもった印象を共有しました。この映画は図書館資料（DVD）として貸出可能です。今後も随時上映会を開催していく予定です。

随想

ゆくてを眺む

磯川　桂太郎

時代や社会のテンポが加速している。その背景にはもちろん様々な技術革新がある。すべきことがより短時間で済むならば、ゆとりが生じるはずだが、実際はすべきこと自体も増加の一途で、この状況は本学部でも同様。しかし、教育機関であること考えれば、教育を提供する側は、加速する流れを追うのではなく先取していく気概が欲しい。また、学生には、タイパつまり対時間効率なぞに翻弄されず、じっくりと学んで欲しいと願っている。

本学部はコロナ以前に、無線LAN、学生のデバイス保有といった環境を整備していたため、コロナ禍での教育に即応できた。コロナは過ぎたが、時代の要請は元の流れに戻すことではない。世の中ではDX化の進行とともに教材・授業形態・運営手法の多様化が教員の世代交代よりも早いスピードで進み始めている。教員には進取の姿勢が求められている。教育内容も然り。教員自身が学生時代に学んだことの中には、アップデートを要する事項が頻発しているはずだ。

本学部の学生は教育課程とリンクした公的試験を経て歯科医師となる。大学生活はその試験をクリアするためだけのものか。目指すのはクイズ王ではない、免許取得のみでもない、患者さんと向かい合う医療を担う人生であるはず。人間性が大きく成長、成熟するこの時期に、時間を惜しまず貪欲に学んで欲しい。学び理解し考えることで報酬系が活性化する脳となれば、それは各自にとって究極のバディであろう。

社会のテンポが加速と言いつつじっくり学べとは、甚だ矛盾したメッセージだ。しかし、定年まであと半年のこの時期、振り返ってみると、過ぎた年月はとても長く充実していた。顕微形態を端緒に、国内外2度の留学で比較解剖、進化、発生学の視点を得た。種の起源(Darwin)の刊行から165年、生命の系譜とゲノム進化との関係が科学的に語られる時代になった。然して、ヒトという種の現況は、この惑星において望まれた適者といえるのだろうか。

（教授　解剖学第Ⅱ講座）

お世話になりました

吉沼　直人

1978年に日本大学歯学部に入学し、1984年に卒業しました。元来、不器用で要領が悪いため、基礎実習や臨床実習では苦労した思いがあります。

特に臨床実習では教育診療医、患者さん、スチューデントデンティストの3人が絡み、スチューデントデンティストはその間でアポイントの調整（直接患者さんへの連絡）、歯科技工（患者さんの診療が終わった後）、診療介助等がありました。

当時は患者さんを診療台に誘導し、診療台に座らせてから教育診療医を呼びに行きました。教育診療医が医局にいない時には旧病院は地下2階から7階までありましたので息を切らしながら走って探しに行ったことを思い出します。

臨床実習に関しては、今は亡き歯科医師であった父と卒業後に話していた時に思わず「つらいから学校をやめたい」と話していたということを父から聞きました。今はやめなくて本当によかったと思います。

卒業後、2022年に亡くなられた村井正大先生主任の歯周病学講座に入局させていただいて研究、臨床、教育（当時、ステューデントデンティストは大学院の先生にも直接ついてくれていましたので、対応するために国家試験用の資料などは自分で作成し解説していました）に関与させていただきました。

大学院卒業後、助教に採用していただき現在に至ります。

その間、国内では東日本大震災、コロナ禍などがありました。個人的には地下鉄サリン事件、秋葉原無差別連続殺傷事件（日曜でしたがたまたま学校にきてサイレンの音を聞きました。）などが通勤中にありました。

コロナ禍が終わり、大声で話し歌い、学生さん達はより勉強、実習に対面で専念できる状況になっています。私たち教員も学生さんたちを精一杯、サポートしていきたいと思います。

私事で恐縮ですが、2025年3月31日で定年退職の予定です。今まで多くの教員、職員の方々には支えていただきお世話になり本当にありがとうございました。

（准教授　歯科保存学第Ⅲ講座）

校医から学生に伝えたいこと

米原　啓之

保健室では、検診結果を基にした健康管理が大きな業務です。検診結果より治療や専門検査が必要な場合には通知を行い、健康管理を行っています。このため通知が来たときには、速やかに医療機関を受診するようにして下さい。

もう一つの業務として、皆さんがケガや体調不良になった時に適切な治療が受けられるように医療機関へ紹介することを行っています。また、一時的な体調不良で休養や安静が必要な場合には、ベッドを用意していますので、保健室で体調の回復するまで休むことも可能です。

なお保健室は医療機関ではないため、応急処置以上の治療や薬を処方することは出来ません。日本大学病院をはじめとした近隣の医療機関を受診するように手続きを行います。この点はご承知おき下さい。

さらには体調面の不調のみならず、精神的不調などが心配な場合には、精神科医師に相談できる体制となっています。体調面や精神的な心配ごとがある場合には保健室で相談が出来ますので利用して下さい。　（教授　口腔外科学第Ⅱ講座）

精神科医から

大槻　怜

本年度、歯学部校医を務めさせていただきます、大槻怜と申します。原則第2、第4木曜日の15–17時まで勤務しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、みなさんと同じく日本大学出身です。現在は主に附属の板橋病院や日本大学病院で精神科医として勤務しております。仕事柄、日本大学出身の歯科医師の先生方ともお話をさせて頂く機会があります。歯学部生の頃は、授業、実習、試験、部活動ととても忙しく心理的な負担も大きかったとお聞きしました。これは人の命に関わっている医療職全般で生じやすい傾向でもありますし、こういった心理的な負担は憂うつな気分や不眠など精神的な問題につながる可能性があります。こういった精神的な問題が続いた時にひとりで解決する必要はありません。相談がありましたら遠慮なくお越しください。辛い時間が少しでも減らせるように一緒に方法を考えていきましょう。お待ちしております。

ほけん室から

ほけん室から

新年度が始まり3か月が経ちました。新しい職場や友達、初めての授業・実習など環境の変化の中ちょっとからだや心が疲れてきている人がいるかもしれません。こんなサインがある人は要注意です。体に現れるサイン（だるい、すぐ疲れる・なかなか眠れない・食欲がない・朝、起きられない）心に現れるサイン（いつもイライラしている・やる気が出ない・ため息がよく出る）言葉や行動に現れるサイン（まちがう事が多い・身だしなみをあまり気にしなくなった・あまり話したくない）等、悩みがあって自分で解決策が見つからない時は、友達、先輩、先生、親に相談してみましょう。相談するほどでもないかも。そんな時は①体を動かす②今の気持ちを書いてみる③深呼吸する④自分の事を褒めてみる（できない事よりもできる事に目を向ける）⑤お風呂につかる⑥早めに寝る。等のセルフケアは心が疲れた時有効な手段です。保健室ではからだのケアは毎週月曜日午後1時から3時米原医師が、心のケアは第2·4木曜日午後3時から5時精神科医の大槻医師が在室し相談も行っています。ひとりで抱え込まず気軽にお越しください。

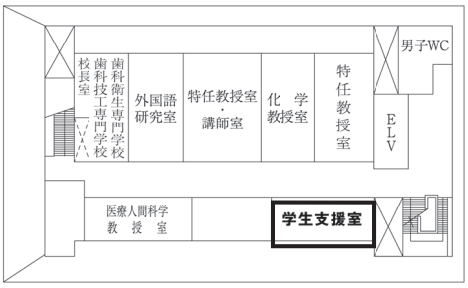
学生支援室より

学生支援室では、皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、様々な相談に応じています。どんなにささいなことでも、気になることや困っていることがあれば、気軽にご相談ください。

電話相談【03-3219-8051（支援室直通）】

ご家族からのご相談も受け付けています。内容について秘密が漏れることは一切ありませんのでご安心ください。支援室は3号館7階にあります。月曜日の昼休みは、本学教員が、水・木・金曜日の10時～17時と火曜日の11時～18時は、日本大学本部学生支援センター所属の臨床心理士が相談を担当しています（曜日ごとに担当するカウンセラーが異なります）。

3号館7階



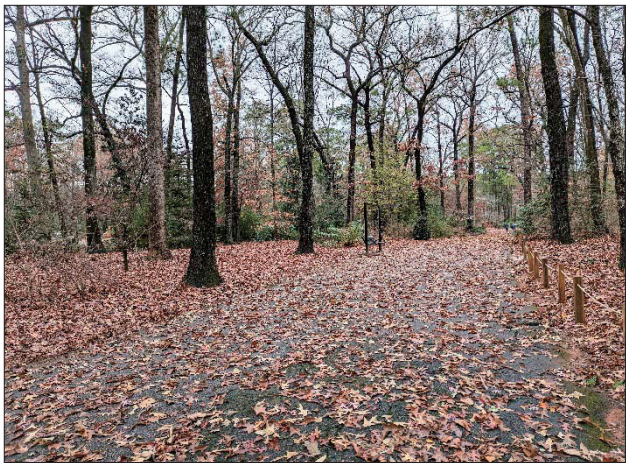
海外派遣

林　良憲

この度、アメリカ合衆国のアラバマ大学バーミングハム校医学部麻酔科に海外派遣研究員として滞在しました。滞在先では、末梢感覚および運動情報を伝える有髄神経の特殊構造であるランビエ絞輪の病態生理学的な機能を解析しました。ランビエ絞輪は教科書で記載されているように、跳躍伝導の発生に必須の部位であり、微細な感覚情報や繊細な運動情報の伝導に役立っています。神経の活動電位発生様式は1963年にノーベル医学・生理学賞を受賞したHodgkin博士とHuxley博士により提唱され、この様式は世界の共通認識でした。しかし、渡航先のGu Jianguo教授は新規解析技術を開発することでランビエ絞輪部の軸索における活動電位発生には独自の様式があることを発見しました。Hodgkin博士のもとで大学院生として勉強していた方から、熱烈なメールが届いたことを毎日のように聞かされておりました。

滞在先では平日は実験、休日は解析とほとんど休む暇がなく、大学院時代よりも実験をしたのではないかと思うほどでした。時間ができた際には近くの公園や植物園に出かけて、バーミングハムの自然を楽しむことができました。写真は植物園ですが、もはや山を切り開いたかのような広さです。研究の観点で最も良かった点は、一流雑誌に名を連ねる先生方の講演を頻繁に聞くことができた点であり、大変勉強になりました。あらゆる人が非常に気さくであり、困っていればすぐに助けてくれ、アメリカという国の寛容さを体験できました。

最後にこの貴重な機会を与えて下さりました前学部長の本田和也教授、渡航の許可を下さりました篠田教授や生理学講座医局員の皆様に心より感謝申し上げます。　（准教授　生理学講座）



米国UOP 短期プログラムに参加して

榎本　智希

この春、口腔内科学講座主任教授の野間昇先生にご紹介頂き、米国・サンフランシスコの“University of the Pacific”（UOP）で口腔顔面痛プログラム参加および米国の先端歯科治療について学ぶ機会を得ました。現地ではUOP学生のNathan Chingさんやその友人達に現地ならではの体験や歯学部での生活など、沢山のサポートをしてもらいました。

私は高校生の頃から米国に興味があり、独学で勉強した英語を用いて歯科治療を学びたいと考え、渡米しました。Nathanさんとその友人達には非常に親切に接してましたが、いざ米国へ渡ると日本に住んでいるだけでは体験することのない差別などの厳しい現実や、歯科診療における言語の壁などを感じることもありました。一方で、多面的な物事の見方や、実力をつけ、自らの意見を持ち表現していく必要性を知ることができました。歯学部という敷かれたレールの上を進むだけでなく、様々なことに挑戦するべきだと、今回の米国での経験を通じて実感しました。

この様な貴重な機会をくださった野間先生をはじめ、サポートいただいた日米双方の皆さまに感謝申し上げます。今後は先生方の背中を追うだけでなく、自分らしさを加えてオリジナルな生き方を創っていけるように挑戦し続けていきたいと思います。

（第４学年）

お世話になったNathanさんと

実験動物慰霊祭

4月13日（土）、歯学部実験動物慰霊祭が両国の回向院で執り行われました。春の暖かい気候のなか、教職員、大学院生、学部学生ら約90名が参加。住職からの法話の後、心身に染み渡る読経に続き、飯沼学部長、佐々木病院事務長の指名焼香と参列者の焼香が行われ、本学部の教育や研究のために供された動物の冥福を祈りました。慰霊祭を終えるにあたり飯沼学部長は、参列への御礼を述べるとともに、「動物実験を行う際は3Rの原則（代替・削減・改善）を徹底し、実験動物への感謝の気持ちを忘れずに取り組んでほしい」と挨拶されました。

第76回日本大学歯学会総会・学術大会

5月19日（日）、歯学部創設百周年記念講堂において、日本大学歯学会総会・学術大会が行われました。学術大会での発表演題数は特別講演2題と一般講演20題でした。特別講演では歯科麻酔学講座岡俊一教授が「歯科麻酔の現状と未来」を、歯科補綴学第Ⅱ講座萩原芳幸教授が「インプラント治療の発展に日大歯学部が果たした役割と、超高齢社会におけるインプラント治療の課題」を発表されました。また、一般講演ではこれまで研鑽した研究の成果を発表することで、若手研究者にとって有意義な場となりました。

総会では令和5年度決算・令和6年度予算を含む全案件が承認されたほか、奨励賞授与式が挙行され、庄司元音（歯科保存学第Ⅰ講座）、宮田泰伎（歯科保存学第Ⅱ講座）、森山鮎子（病理学講座）、澤田憧（口腔外科学第Ⅱ講座）、大熊理沙子（歯科矯正学講座）の大学院生5名が表彰されました。

歯学部進学相談会

第1回進学相談会を6月16日（日）に開催しました。全体説明会をはじめ、校内見学を行った後、希望者に対して個別相談及び校友枠選抜全体説明会を実施しました。また、在校生との対話コーナーを設け好評を得ました。

引き続き、以下の日程で実施します。

	開催日	定員(事前予約制)	受付開始	時間
第2回	7月21日(日)	各回150名 ※定員には同伴者を含む	各回 9：30	各回 10時 開始
第3回	8月18日(日)			
第4回	10月12日(土)	桜歯祭と共催・相談ブースのみ (事前予約不要)		

※実施内容、申込方法等は歯学部ホームページを御確認ください。

●Webオープンキャンパス

歯学部ホームページで、歯学部紹介や模擬授業の動画、バーチャル校内見学を公開しています。

【問合せ先】

歯学部　教務課
03-3219-8002　E-mail: de.academic@nihon-u.ac.jp

専門学校進学相談会

●令和6年度進学相談会日程

	開催日	時　間	場　所
第3回	7月　7日（日）	10：00～13：00 附属歯科技工専門学校 予約制 （当日参加も歓迎） 附属歯科衛生専門学校 完全予約制 予約電話 03-3219-8007	日本大学 歯学部 本館内
第4回	8月25日（日）		
第5回	10月12日（土） 駿技祭　翔衛祭		専門学校 講堂

※令和6年10月12日（土）については、個別相談と学校見学のみ実施

場　所：日本大学歯学部3号館

概　要

●個別相談：本学専任教員が各種相談を承ります。

●校内見学：講義室、実習室等を見学します。

●体験実習：技工専門学校：カラフルな歯を使用してストラップを作製。
衛生専門学校：毎回違う体験実習を用意しています。

附属専門学校から

歯科技工専門学校

今春、17名の新入生をむかえることができ、第2学年は15名、第3学年は12名が在籍しております。昨年と同様に、第1学年は321講義室（旧第5講堂）、第2学年は322講義室（旧第6講堂）、第3学年は331講義室（旧第7講堂）で講義を受講し、全学年が第5実習室を使用して歯科技工実習を行っています。昨年度の卒業生は科目等履修生制度を利用し、本大学歯学部で2名の学生が学士の取得を目指しております。

今年も、教職員は学生が歯学部附属の特徴を生かしたカリキュラムや学外行事へ積極的に参加できるように努力してまいります。また、多くの歯学部兼任講師のご支援により、実習などが学生に対して良い環境となっていることを心より感謝申し上げます。本年度も皆様のご協力の程よろしくお願い申し上げます。

歯科衛生専門学校

令和6年度の歯科衛生専門学校は、口腔内科学講座教授 岡田明子校長、歯科保存学第Ⅱ講座准教授 清水康平教務主任、第1学年担任 矢野杏佳専任教員、副担任 満足愛専任教員、第2学年担任 國井知余専任教員、副担任 中澤広美専任教員、専門学校事務室 向井友美主事の教職員スタッフで構成されスタートしました。令和6年度の在校生は現在、第2学年30名、第1学年36名の計66名となっています。第1学年は新しい環境に慣れ、また第2学年は病院実習に向けて、臨床的な科目の学修も始まり、それぞれの学年が、充実した日々をおくっています。5月29日に行われた第48回令和6年度日本大学歯学部球技大会では、入賞には届きませんでしたが、全員が参加し、皆で力を合わせ交流を深めました。ようやく学内の各種イベントが正常化しだした専門学校生活であります。教職員一同、歯科衛生専門学校生が毎日充実したキャンパスライフを過ごせるように、全力でサポートおよび応援をしていきます。

歯学部後援会総会

父母を会員とする歯学部後援会総会が6月8日（土）に本館大講堂（創設百周年記念講堂）にて開催された。開催に先立ち名誉会長である飯沼利光学部長、西田香後援会会長より挨拶の後、林誠学務担当より学務関係に関する報告、本吉満学生担当より学生生活の活動に関する報告がなされた。今総会では、承認された新役員により臨時役員会を別室で開催し、役員の互選により新会長として織井弘道氏が選出された。令和5年度決算及び事業報告、令和6年度予算及び事業計画とすべての案件が承認された。

新会長　織井弘道氏

総会終了後、学年別懇談会が行われ、学年主任、クラス担任、学務委員により学務・学生生活に関することが報告された。その後銀座アスターにおいて懇親会が開催された。

後援会総会の様子（中央　西田香前会長）

NewsPlus α

☆夏季期間中の図書館開館時間

以下の期間は夏季短縮期間となります。
7/29（月）～ 8/17（土）　9:00 ～ 17:00
土、日、祝日は閉館
詳細はHPのカレンダーをご覧ください。
https://www.dent.nihon-u.ac.jp/library/

☆定期健康診断

5月10日（金）・11日（土）に本学部生、大学院生及び専門学校生を対象として、内科健診、胸部X線間接撮影、尿検査、身長・体重測定等実施され、100%に近い受診率であった。

学　事

歯学部行事予定

8月 18日（日）　第３回進学相談会
9月 28日（土）　大学院歯学研究科入学試験（第１期）
10月　4日（金）　日本大学創立記念日
　　5日（土）　父母懇談会
　　11日（金）　桜歯祭
　　12日（土）　桜歯祭・進学相談会（相談ブースのみ）
　　19日（土）　外国人留学生選抜、編入学・転部試験

入学者選抜等

令和６年度歯学部入学者選抜（実績）

一般選抜	試験日	志願者数	受験者数
Ｎ全学統一方式第１期	令和６年２月１日（木）	201名	147名
Ｎ全学統一方式第２期	令和６年３月４日（月）	159名	112名
Ａ個別方式	令和６年２月３日（土）	256名	231名
Ｃ共通テスト利用方式第１期	―	124名	123名
Ｃ共通テスト利用方式第２期	―	26名	26名

令和６年度大学院歯学研究科入学試験（実績）

		試験日	志願者数	受験者数
第１期	一般	令和５年９月30日（土）	３名	３名
	社会人		０名	０名
第２期	一般	令和６年３月２日（土）	15名	15名
	社会人		６名	６名

科学研究費助成事業交付者

（令和６年４月30日付、課題番号順）

☆基盤研究（Ｂ）
山本安希子　小林　真之　篠田　雅路　今井　健一

☆挑戦的研究（萌芽）
小林　真之

☆基盤研究（Ｃ）
山口　洋子　中山　渕利　佐藤　秀一　鈴木　秀則
岡﨑　章悟　岩田　幸一　藤田　智史　藤原　恭子
Cueno Marni　髙山　忠裕　黒川　弘康　髙見澤俊樹
鈴木　直人　大原　絹代　蓮池　聡　浦田健太郎
小峰　太　新井　嘉則　中嶋　昭　山本　清文
人見　涼露　武市　収　津田　啓方　秋田　大輔
篠塚　啓二　中谷　有香　野間　昇　岡　俊一
林　良憲　松本　邦史　大橋　一徳　阿部　仁子
清水　康平　渡辺　孝康　平場　晴斗　岩崎　太郎
二宮　禎　池田　貴之　李　淳　小柳　裕子
岡田　明子　澁田　郁子　菊入　崇　白川　哲夫
近藤　真啓　中井久美子

☆若手研究
米永　一理　角田麻里子　金子　啓介　玉川　崇皓
福井　怜　石山　未紗　松村　幸恵　関　啓介
岡野　雅春　安川　拓也　渡辺　典久　岡田　真治
小笹　佳奈　川﨑　詩織　尾辻　盛　相馬　久実
小方　彩乃

☆研究活動スタート支援
廣瀬　健佑　笠原　悠太　ﾁｬｰﾙｽﾄﾝｺｰﾄﾞ祐　廣兼　榮造
尾辻　盛

☆特別研究員奨励費
川﨑　詩織

学生生活

特待生と奨学生

＝日本大学特待生＝

第２学年　木村　遼（乙）　第５学年　澤田　昌志（乙）
第３学年　猪狩　脩（乙）　第６学年　内本　侑那（甲）
第４学年　中野　喜文（乙）

＝佐藤奨学生＝

〈第１種〉

（歯学部）
第２学年　富永　龍　楠美　周平　梶浦　大暉
　　佐藤　咲歌　福山　拓海　他１名
第３学年　後藤　綾那　鈴木　夢　前田　智香
　　田中　珠和　月岡　亮介　岡庭　愛実
第４学年　金子　千紘　田中　憲聖　本平　一輝
　　田中　悠介　中島もなみ　横田　駿冴
第５学年　浅本　実樹　二ツ谷和那美　天野　真未
　　木許　美育　池澤　桃香　神林　真由
第６学年　小池　香穂　一ツ子綾乃　福田　季央
　　橋本　紋伽　徳永　陸斗　筒井　蒼耶

（歯科技工専門学校）
第２学年　中池　有咲
第３学年　岩前　百香

（歯科衛生専門学校）
第２学年　大塚　杏奈　能勢　風花

〈第２種〉

（歯学部）
第５学年　佐藤　智尋　西出　怜央
第６学年　佐藤　陽大　富樫　碧冬　山岸　佳子

＝日本大学古田奨学生＝

（歯学研究科）
第４学年　庄司　元音

＝日本大学ロバート・Ｆ・ケネディ奨学生＝

（歯学研究科）
第４学年　滝澤　慧大

＝歯学部同窓会奨学生＝

（歯学部）
第５学年　澤田　昌志　清水　一帆
第６学年　行田　亘那

（歯学研究科）
第４学年　大熊理沙子　庄司　元音　宮田　泰伎
　　森山　鮎子

お知らせ

寄付金の受け入れ

（5.31 現在）

＝研究助成金＝

50万円　クラレノリタケデンタル株式会社
歯科保存学第Ⅰ講座へ
（代表取締役社長　山口　里志 殿）　3.29

＝佐藤奨学・研究基金＝

50万円　日本大学歯学部後援会（会長　西田　香 殿）　3.29

＝日本大学歯学部教育研究資金＝

500万円　日本大学歯学部同窓会（会長　横江　順 殿）　3.22

＝学校への補助費として＝

1,380万6千円
日本大学歯学部後援会（会長　西田　香 殿）　3.29

編集後記

今年は、令和6年（2024年）。「平成」から「令和」となって6年目の夏を迎える。昭和6年（1931年）、「大正」が終わりおよそ6年後、明治の時代が終わりおよそ20年後、俳人、中村草田男は、「降る雪や 明治は遠く なりにけり」と時代が移ろう感慨を読んだ。我が「桜歯ニュース」は昭和43年（1968年）6月22日に第1号を発刊して以来、号を重ね平成5年（1993年）10月15日に第100号、平成30年（2018年）10月15日に200号、今般、令和6年（2024年）7月15日には223号の発刊を迎えた。本紙も「昭和」、「平成」、「令和」と時代のバトンを引き継ぎながら大学行事、教育、研究、学生生活などの記事を数多くお届けしてきている。号を重ねるごとに、いっそうたくさんの明るく希望に満ちた記事をお届けできるよう、読み返した際には、その時代、時代のことが鮮明に思い浮かぶような記事を今後もお届けできることを願い。皆様には、本号、御高覧いただければ、大変に幸いです。（T.S）

表紙の写真は佐藤紀子先生（健康科学分野）にご提供頂きました。
裏表紙の水色で囲まれている写真は上村梨香さん・髙橋知聖さん（歯学部第1学年）にご提供頂きました。

第223号　日本大学歯学部発行
東京都千代田区神田駿河台1-8-13　TEL　03（3219）8001